

どんぐりをくらべよう

どんぐりの木を一年を通して観察して種類ごとに比べてみよう。
葉は一年中、木についているかな？
花はいつ咲くのかな？



グループ	種類	かくともよう 殻斗の模様	生活形	花の時期	おぼな 雄花のつき方	じゅふん 受粉の手段	どんぐりが 熟すまでに かかる期間
ブナ属	ブナ	トゲトゲ+さける	らくようじゅ 落葉樹※1	春	たれ 下がる	風	1年※3
	イヌブナ						
シイ属	スダジイ	トゲトゲ	じょうりよくじゅ 常緑樹※2	初夏	上向き 花の香りは強い	虫	2年※4
	ツブラジイ						
クリ属	クリ	うろこ模様	落葉樹	秋			1年
オニガシ属	マテバシイ		常緑樹				2年
コナラ属	コナラ	うろこ模様	落葉樹	春	たれ 下がる	風	1年
	ミズナラ		落葉樹				2年
	ナラガシワ		常緑樹				1年
	ウバメガシ		常緑樹				1年
	カシワ	トゲトゲ	落葉樹	冬			2年
	クヌギ		落葉樹				
	アベマキ	しま模様	常緑樹	春			1年
	ウラジロガシ						
	オキナワウラジロガシ						
	ハナガガシ						
	アカガシ						
	ツクバネガシ						
	シラカシ						
	アラカシ						
イチイガシ							

※1: 冬の寒い時期に葉を落とす木 ※2: 葉が一年中ついている木 ※3: 花が咲いた年の秋に実が熟す ※4: 花が咲いた翌年の秋に実が熟す

どんぐりのゆくえ

動けない植物は、自分のなかまをふやすため動物や風などの動くものを利用してタネをなるべく遠くへ運びます。生育に適した場所へ運ばれたものが生き残ることができます。どんぐりの場合は、タネを運ぶ手段「種子散布」を2つもっています。

出典: 藤川和美・田中伸幸・楠瀬雄三・夏井操, 2012. 植物を知らう! ガイドブック, 13pp. 高知県立牧野植物園.

じゅうりよくさんぶ 重力散布

地面に落ちて、ころころ転がります。

ちようぞうさんぶ 貯蔵散布

リスやネズミなどが集めて埋めたたくさんのどんぐりの中には、食べられずに残るものもあります。食べられなかったどんぐりはやがて芽を出します。



どんぐりを 見分けよう!

どんぐりとは

ブナ科の果実をまとめて「どんぐり(団栗)」とよびます※。どんぐりの名前の由来は、丸い「団」栗という意味や、役に立たない「ドン」栗といった意味があります。

どんぐりは、一部または全体がかたい殻に包まれています(堅果)。かたい殻を「殻斗」とよびます。

どんぐりはデンプン質が豊富で、動物が冬に備えるための食料になります。また、わたしたちは古くからどんぐりのしぶ味の成分であるタンニンを抜いて食用にしていました。日本には22種類のどんぐりがあります。

※クリやブナなどを含めないことがある。

どんぐりのつくり

柱頭: めしべの先にある花粉を受ける部分
花柱: 柱頭と子房(のちに果実になる部分)の間の部分
果皮: かたく、中の種子(種皮に包まれた部分)を守る
種皮: 渋皮の部分
幼根: 熟して地面に落ちると、根を出して土にもぐる
子葉: 発芽のための栄養分をたくわえている
着点: どんぐりと殻斗がつながっている部分

どんぐりの 縦断面



殻斗: どんぐりを一部または全体を包むかたい殻。どんぐりが小さいとき、どんぐりを包むことで乾燥や害虫から守る役割があると考えられている。「ぼうし」や「はかま」「おわん」、最近では「パンツ」ともよばれる。

どんぐり

を見分けよう!

検索チャート

※高知県に生育しないオキナワウラジロガシを除く。

